

# 陸上競技研究紀要

Vol.14, 2018

ISSN1349-7596

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF



## contents

### 特集企画

ジュニア競技者育成における  
身体リテラシーの意義

### 資料報告

日本陸連科学委員会研究報告

日本陸連医事委員会  
エキサイティングメディカルレポート



写真提供: 森田直樹/アフロスポーツ

# JAAF

Japan Association of  
Athletics Federations

# 「陸上競技研究紀要」

(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF)

## 投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

### 1. 投稿資格について

特に制限は設けない。

### 2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、資料、指導法および指導記録の報告などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には上記の投稿種別を明記し、英文のタイトル、著者、所属、総説および原著には要約（150語以内）をつける。

（注：何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください）

### 3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

### 4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。（1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成）英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系（m, kg, sec など）とする。

また、英文字および数字は半角とする。

### 5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者（発行年）という形式で表記する。

例）田中（1996）は -----

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名（発行年）、論文名、誌名、巻（号）、ペー

ジの順とする。

例）吉原 礼，武田 理，小山宏之，阿江通良（2006）女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクス的分析。陸上競技研究紀要，2：58-64。

伊藤 宏（1992）陸上競技の発育・発達。陸上競技指導教本—基礎理論編—。日本陸上競技連盟編，大修館書店，55-72。

同一著者，同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後に a, b, c をつける。

例）田中ら（1996 b）は，-----

### 6. 原稿の提出先

投稿原稿（本文，図表など）は，下記へE-mailの添付資料として送付するとともに，プリントしたもの1部を郵送する。

〒163-0717

東京都新宿西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

(Tel 03-5321-6580 Fax 03-5321-6591)

E-mail: kiyou@jaaf.or.jp

### 7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは特に設けず，随時受理し，査読を行う。ただし，2018年度版は，2019年1月末日とする。

### 8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は公益財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

(2018年11月 改訂)

## あ い さ つ

公益財団法人日本陸上競技連盟  
専務理事 尾縣 貢

来シーズンは、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年です。2019年シーズンは、これまでに取り組んできた種々の活動の仕上げの年となることでしょう。強化活動もさることながら、医事、科学面からのサポート活動、そしてそのエビデンスをつくっていく研究活動も佳境に入っていきます。

研究・サポート活動の中心テーマは、やはり酷暑にどう立ち向かうか。昨年のジャカルタのアジア競技大会では、酷暑の環境下での戦い方やコンディショニングは、東京オリンピックにも共通するものであるという認識から、科学委員会を中心に現地でのサポート活動を展開していただきました。男子 50km 競歩では、1 ラップ毎に選手のキャップを氷で冷やしたのものに取り替えたり、レース中の体表面温度の推移に関するデータ収集など、東京オリンピックを見据えた暑熱対策を展開していただきました。こういった医・科学の力は、日本の強みであると言えます。科学的データの積み重ね、そしてそこから得られた知見の伝承も東京オリンピックのレガシーとなるでしょう。

東京オリンピックに向けた強化活動とともに、現在、推進しているのが、「一人でも多くの方が陸上競技を楽しみ、そして関わり続けるために」をスローガンとする日本陸連競技者育成指針（昨年 11 月公表）の実現に向けた施策の展開です。この指針には、人生を 6 つのステージに分けて、それぞれのステージでのスポーツおよび陸上競技への関わり方が明確に示されています。この育成指針の中で、頻出するワードが“身体リテラシー”です。簡単に言うと、“身体リテラシー”は、“体の賢さ”を指します。今回は、「ジュニア競技者育成における身体リテラシーの意義」を特集として取り上げていますので、今後の競技者育成活動の参考にしていただければ幸いです。

皆様の陸上競技に関する様々な取り組みに、この「陸上競技研究紀要」を役立てていただければ幸甚に存じます。

# 陸上競技研究紀要

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

Vol.14 2018

## 目 次

### 【特集企画】

ジュニア競技者育成における身体リテラシーの意義  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### 【資料報告】

得点分析にもとづく女子七種競技者のアセスメントのための基準値の作成  
・・・・・・・・・・村山凌一ほか・・ 36

データベースを利用した新しい競技力指標と心理テストの関係性の検討  
・・・・・・・・・・橋本泰裕・・ 48

陸上競技選手におけるスポーツ歴の特徴－学生選手に対する U19 までの軌跡調査－  
・・・・・・・・・・三上なつきほか・・ 56

女子走幅跳高校記録保持者の高校 3 年間にわたる踏切および踏切準備における  
キネマティクス的特徴の縦断的变化  
・・・・・・・・・・柴田篤志ほか・・ 67

軽量円盤および重量円盤の投てきがリリースパラメータに与える影響  
－ 選手の投能力に着目して －  
・・・・・・・・・・黒田剛志ほか・・ 76

【日本陸連科学委員会研究報告 第 17 卷 (2018) 陸上競技の医科学サポート研究 REPORT2018】  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83

【エキサイティング メディカル レポート】  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251